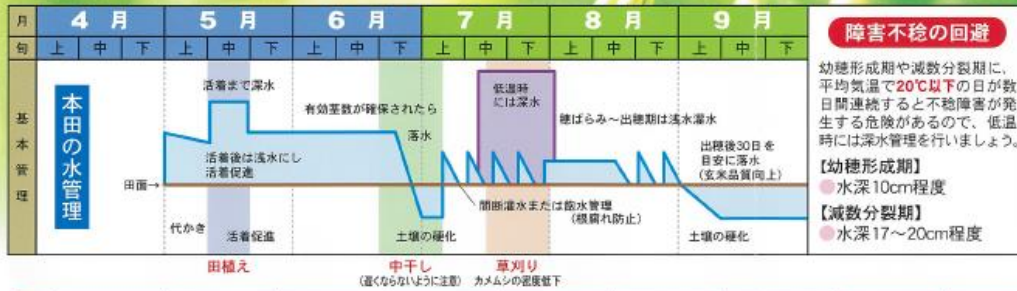


JAみやぎ登米 平成30年産 環境保全米Cタイプ栽培ごよみ

監修：宮城県登米農業改良普及センター(使用資材の選別は、JAみやぎ登米による)



異品種混入防止の徹底

複数品種を栽培されている場合は、異品種混入防止のため播種や苗箱管理の適正化や、収穫・乾燥・調製機械の清掃を徹底しましょう。異品種混入が確認された場合、損害賠償責任問題まで発生する場合がありますので留意下さい。

堆肥	土づくり肥料	育苗肥料	播種	清掃	基肥	田植え	清掃	除草剤	追肥	カメムシ防除	収穫	清掃
10a kg	10a kg	1箱	タチガレン剤	品種切替時の機械清掃	10a kg	箱処理剤	品種切替時の田植機清掃	10a kg	10a kg	カメムシ防除	月日	品種切替時の機械清掃
月日	月日	月日	月日	チェック	月日	月日	チェック	月日	月日	月日	月日	チェック

1 土づくり

1 良質堆肥の施用

土壌の保肥力や膨軟性向上のため良質堆肥を施用し、持続的安定生産の確立に努めましょう。

土壌	10aあたりの堆肥散布量	
	有機センター堆肥	自家製良質堆肥
泥炭土・黒泥土	0.3～0.5 t	0.8～1.0 t
グライ土		1.0～1.2 t
灰色低地土		1.0～1.5 t

2 土づくり肥料の施用

土づくり肥料の施用は、稲の健全化と登熟歩合向上につながります。また、けい酸は、根・茎・葉を丈夫にし病害虫・冷害・倒伏に強い健康な稲を作るのに有効ですので、積極的に施用しましょう。

土壌	10aあたりの施用量		
	アikal(粒・液)	よつりんアikal(粒)	これら全部
泥炭土・黒泥土	120～160kg	200kg	60～80kg
グライ土	80～100kg	160kg	
灰色低地土	60～100kg	140kg	

2 施肥

生育期間中(育苗+基肥+追肥)に使用する化学肥料のチッソ成分量は慣行施用量の1/2にあたる3.5kg/10a以下とします。

1 育苗肥料

育苗専用肥料(1箱あたり20g)
またはロング入り育苗肥料(1箱あたり60g)

2 基肥

肥料名	量	成分(%)			チッソ成分量(9g/袋)			10aあたり基肥量及びNH4-N化での施肥量(換算量)	
		N	P	K	全窒素量	化学窒素量	有機窒素量	基肥量	追肥量
基肥一発1号	20kg	10	9	10	2.0	0.98	1.02	3袋以内	不要
基肥一発2号	20kg	10	8	8	2.0	0.98	1.02	3袋以内	不要
くた君有機一発200	20kg	12	10	10	2.4	1.18	1.22	2.5袋以内	不要
ヘルシーライス有機2号	20kg	8	8	3	1.0	0.7	0.9	3袋以内	7.1kg以内
フレーパーベスト	20kg	8	4	6	1.6	0.8	0.8	3袋以内	5.5kg以内
有機アグレット666号	20kg	6	6	6	1.2	-	1.2	3袋以内	不要
バイオノ有機S	20kg	7.4	4.4	2.7	1.48	-	1.48	3袋以内	不要
有機入り化成0.46	20kg	10	14	6	2.0	0.98	1.02	3袋以内	2kg以内

3 追肥

化学肥料及び有機肥料を使用する場合

品種名	肥料名	追肥時期	現物量	化学肥料(チッソ成分量)
ひとめばれ等	NK化成C68号	出穂20～25日前頃 出穂10～15日前頃	6.25kg/10a	1.0kg/10a
	ヘルシーライス有機2号	出穂30～35日前頃	20kg/10a	0.7kg/10a

○有機質肥料(ヘルシーライス有機2号等)は、化成肥料より分解・吸収が遅いので、早めに施用する必要があります。

3 種もみの準備・病害虫防除・除草剤

1 種子消毒

◎種子は、全量更新したものだけを認めます。
◎種子消毒は、「温湯消毒」殺菌法によるものとします。(63℃5分または60℃10分)
◎微生物を有効成分とする防除剤の使用を推奨します。消毒後の種もみは、カビやばく菌などの二次感染を防ぐため、種もみは、むしる等の近くに置かないようにしましょう。また、地面に直接置かないように保管しましょう。

薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用方法
エコホープDJ	浸種前～催芽前 発芽時	200倍	24～48時間浸種 24時間浸種
タフブロック	催芽前 発芽時	200倍	24～48時間浸種 24時間浸種

2 浸種

水温5～10℃くらいで時間をかけて行いましょう。水交換は1日おきを目安にしましょう。

浸種の目安
ひとめばれ 水温10℃で12日間(積算温度120℃)
ササニシキ 水温10℃で10日間(積算温度100℃)

3 苗立枯病・ムレ菌防止

タチガレン剤またはタチガレン液剤を施用します。

薬剤名	使用量	使用時期・方法	成分数
タチガレン粉剤	ムレ菌防止は4～8g/箱 苗立枯病は3～6g/箱	播種前に 床土混和	1
タチガレン液剤	500～1,000倍 箱あたり500ml	播種時及び 発芽後灌水	

4 病害虫防除(箱処理剤)

デジタルメガフレア箱処理剤またはデジタルコラトップアクタラ箱処理剤を施用します。

薬剤名	対象病害虫	使用時期・使用量	成分数
デジタルメガフレア箱処理剤	イネミズゾウムシ イネトドロイムシ いもち病、ウンカ類 カメムシ類	移植前3日～ 移植当日	2
デジタルコラトップアクタラ箱処理剤	イネミズゾウムシ イネトドロイムシ いもち病、ウンカ類	移植前3日～ 移植後30日まで 1箱あたり50g	

※箱処理剤の効果を最大限に発揮させるためには、育苗箱一箱当たりの使用量50gを確実に施用して下さい。

5 除草剤

薬剤名	10aあたり使用量	使用時期	成分数
アップレズ1キロ粒剤	1kg	移植時 移植直後～移植後3葉期 ただし移植後30日まで	3
アップレズフロアブル	500ml	移植後3日～ 移植後3葉期 ただし移植後30日まで	
アップレズジャンボ	小パック10個(400g)	移植後3日～ 移植後3葉期 ただし移植後30日まで	

◎水田除草剤使用については、4日以上の湛水状態を保つ必要があるため、畦塗りなどの畦畔整備に努めましょう。
◎耕耘前及び畦畔除草作業での除草剤使用はできません。(除草剤の水田への流入及び農薬使用成分増加のため)

3 カメムシ防除

斑点米カメムシ類の被害を防ぐため、畦畔等の草刈と本田散布を併せた体系防除を徹底しましょう。

薬剤名	10aあたり使用量	使用時期	成分数
キラップ粒剤	3kg	出穂10日前～出穂期(収穫14日前まで) ※散布後少なくとも7日間は湛水	1
キラップ粉剤DL	3～4kg		
キラップフロアブル	1,000～2,000倍液 60～200g	出穂後7日～10日頃(収穫14日前まで)	

◎耕作的防除

水田周辺の草刈りは、年3回(5月下旬・6月下旬・7月下旬)の草刈りを奨励します。特に7月下旬(出穂10日前まで)の一斉草刈りを徹底するよう心がけましょう。

4 収穫・乾燥調製

1 収穫時期の目安

圃場を観察し、初穂の80～90%程度が成熟して黄色になり、穂軸の先端から1/3程度が黄化した時期が刈取適期となります。刈遅れになると着色粒や胴割粒が増加し、品質を大きく低下させる原因となるので注意しましょう。

☆品種別の刈取目安

品種	出穂後日数	出穂後積算気温
ひとめばれ	40～45日頃	940～1,100℃
ササニシキ	45～50日頃	930～1,170℃

2 乾燥・調製作業

◎乾燥機に能力に合わせた刈取を行い、高温急速での乾燥はしないようにしましょう。
◎ライスグレーダーの網目は1.90mmを使用し、整粒歩合80%以上の1等米に仕上げましょう。

食味評価値は、ケット値で70点以上になるよう、米づくりを頑張らしましょう。

残留農薬のポジティブリスト制度

残留農薬のポジティブリスト制度がはじまり、今まで対象作物に残留基準値が示されていない農薬にも、全て0.01ppm(1億分の1)という低い残留基準が設定されています。この基準値をオーバーしてしまうと、生産物の出荷停止・回収などの対応が求められる可能性があります。農薬散布の際には、これまで同様、農薬使用基準に基づく使用方法を遵守するとともに、周辺への農薬の飛散(ドリフト)に配慮しましょう。

※お問い合わせは、最寄りの支店営農経済センターにご連絡下さい。